

2026年11月2日発行

第四号

古今東西!!
天文通信局



ラッコが可愛いだけで生きていける訳

熱を得る為に超特化した身体

みなさん、日本で唯一ラッコが飼育されている水族館をご存じですか？2026年現在、日本国内で飼育されているラッコは、三重県鳥羽市にある鳥羽水族館のメスのメイとキラの2頭だけです。私も実際に見に行ったのですが、とても可愛らしかったです。片道5時間くらいかけた甲斐はありました。

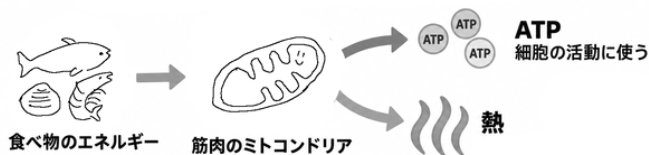


そんな大人気の海のマスコットですが、ラッコには、可愛い姿からは想像しにくい、寒い海を生き抜くための仕組みがあります。その秘密は、毛皮と筋肉にあります。

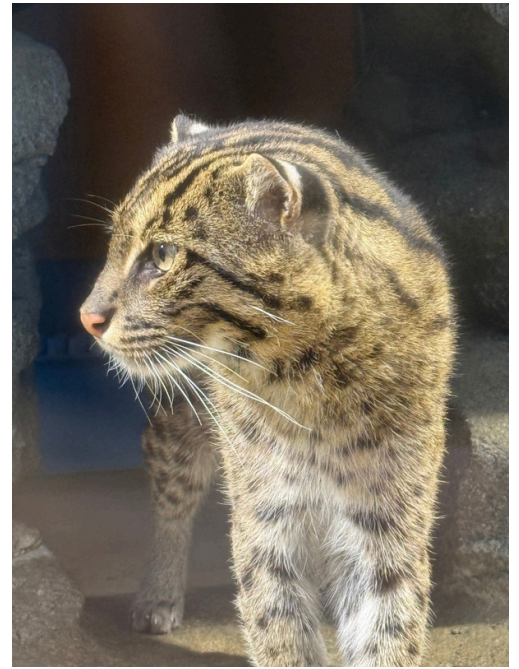
ラッコは、アザラシなどのような厚い皮下脂肪を持たない代わりに、非常に密集した毛を持っています。毛の間にためた空気が断熱材となり、体の熱が海水に奪われるのを防いでいるのです。

さらに、筋肉の細胞にあるミトコンドリアでは、食べ物から得たエネルギーの一部を、ATP（細胞が活動するために使う物質）の合成に使わず、熱として放出する仕組みが発達しています。電球で例えると、光を作る効率のよいLEDに対して、多くのエネルギーが熱になる白熱電球のようなイメージです。しかし、冷たい海で暮らすラッコにとって、この熱は無駄ではなく、体温を維持するために役立っています。その分、たくさんのエネルギーが必要になるため、ラッコは1日に体重の20～30%ほどの餌を食べます。可愛い顔をした、驚くほどの大食いなんです！

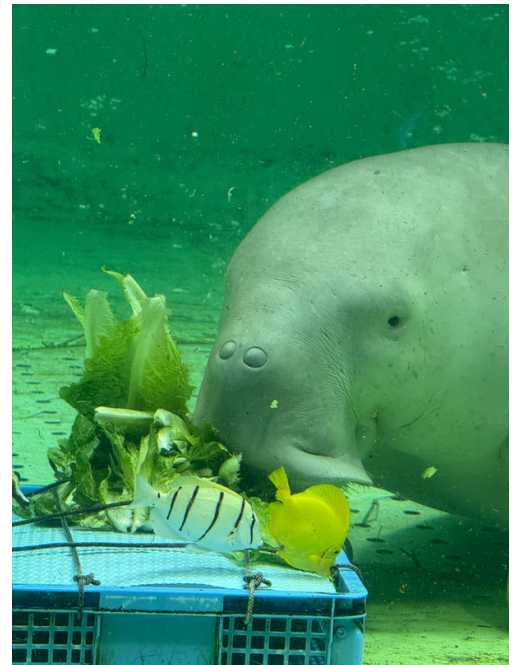
ラッコのエネルギー変換



電球に例えると…



↑スナドリネコ



↑飯を食うジュゴン



↑ペンギン

ただし、こうした体の仕組みがあっても、ラッコは現在も絶滅危惧種です。シャチに捕食されることもあり、地域によっては個体数の減少に関わったと考えられています。可愛らしい姿をこれからも見られるよう、ラッコと、その暮らす海をどのように守っていくかが大切ですね。